

海外留学を楽しむシニアが増えている。語学学校での勉強に加え、趣味や旅行などを組み合わせた多彩なプログラムが登場。滞在方法もホームステイだけでなく寮やホテルなど、選択肢は幅広い。海外旅行とはひと味違った留学ならではの海外生活の醍醐味と成功の秘訣を探った。

「初対面のあいさつは『How do you do?』ですか」

「学校の友人には『Nice to meet you』の方が気さくで良いですね」

4月中旬、留学のあっせんや渡航支援を手掛ける留学図書館(東京・大田)で開かれたシニアのための説明会。60〜70代の参加者4人は海外の語学学校ですぐに役立つ英会話を練習し、空港での搭乗方法などを学んだ。英領ジャーシー島での2週間の留学を5月下旬に控える女性(74)は「趣味の英会話を磨くため、思い切って留学を決めた」とうれしそう。

子供から高齢者まで幅広い年代の留学相談に応じる

## セカンドステージ

# シニア留学 趣味極める

### シニア留学 成功のコツ

～経験者や留学プランナーに聞く～

- ・語学力が不安でも思い切って行く
- ・積極的に会話し、楽しむ前向きな姿勢が大切
- ・レトルトの米や味噌汁を持参するなど、日本食でひと息つく工夫も
- ・ホームステイだけにこだわらない
- ・観光や趣味など学校外の楽しみも調べておく

留学ジャーナル(東京・新宿)によると、留学出発者のうち中高年が近年伸び続けているという。

シニア留学のブームは団

## 語学学校+ゴルフやガーデンニング

## 50歳以上限定クラスも



留学を希望するシニア向けの説明会(東京都大田区)

中高年が海外留学に出る際に気をつけるべきことは何か。留学図書館の留学プランナー、渡辺知美さんは初めての場合の留学期間として、2〜4週間を薦める。

1週間では慣れたころに帰国することになる。期間を少し長めにする一方で、逆に授業時間を短くすることができ、観光などを楽しむゆとりを持って過ごせるという。

シニアが陥りがちなのは日本での習慣や価値観にこだわらず、ホームステイ先で洗

塊の世代が退職時期を迎えた2000年代からみられ

だが、同社広報の石沢京子さんは「自己研さん熱がま

## 期間は2〜4週間 授業時間は短めに

濯や食事の習慣が合わず気疲れしたり、言葉が話せず引込み思案になったりすることがあるといい、寮やアパートの活用も選択肢の一つだ。

国や学校によるが、1カ月の留学でかかる費用は渡航費や滞在費、授業料を含めておおむね40万〜60万円。ホームステイは食事が含まれていることが多く、現地の生活費はそれほどかからないという。渡辺さんは「シニア留学生の95%は英語の初心者。思い切って行って良かったとの感想が多い」と話す。

千葉県の村田憲二さん(65)はマルタ島の語学学校でドイツやブラジル出身の50〜60代の男女5人と机を並べて学んだ。授業を終えた午後にはお酒を飲みに出かけ、現役時代の職業や、家族の話で盛り上がったという。世界遺産やクルーシングなど観光にも出かけた。

ますます高まっている」と話す。「2020年東京五輪のボランティアで社会貢献したい」「仕事が一段落したので自分の時間を充実させたい」などの声が増えているという。

北米やオーストラリアなど定番留学先に加え、地中海の島国・マルタやアイルランドなど、ヨーロッパで英語を公用語とする地域が人気を集める。

シニア層に向けた留学プログラムも多彩になってきた。10〜20代の若者と一緒に授業を受けるのは気が引けるといふシニアの声を受け、現地の語学学校が「50歳以上限定クラス」などを開設。授業は午前のみなど短めで、午後からは観光のほかゴルフやガーデンニング

滞在形態の選択肢も広がっている。定番のホームステイでは、同世代のシニア宅や英語教師の自宅に滞在すると会話が弾む。語学学校が紹介する寮やホテルなどは個室で、簡単な台所で自炊もできる。

孫を連れて留学するシニアも多い。東京都大田区の寺岡友子さん(74)は17年前から計5回留学した。「孫が小学生になったら長期休みにニュージールランドへ留学したい」と夢を語る。リピーターならではの楽しみ方は様々だ。

(松浦奈美)